

城西国際大学生命科学研究センター

施設概要

[住所] 〒283-8555 千葉県東金市求名1番地 城西国際大学

生命科学研究センターとは

城西国際大学の動物実験施設（生命科学研究センター）は、2004年薬学部の開設に伴い設置された。将来の医療を担う学生を教育するにあたり、生命活動に関する科学的理解を深め、また生命に対する成熟した倫理感を育成するための施設として、学生実習や研究活動を支援している。

本施設は延べ面積 469 平方メートルと小さい施設であるが、施設管理は充実しており、室温 $24.0 \pm 1.0^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $60.0 \pm 10.0\%$ 、照明時間 12 時間（午前 7 時点灯）の飼育環境、SPF グレードの衛生状態が維持されている。専属の管理者 3 名により常時管理されており、設置以来問題なく運営されてきている。施設には飼育室が 7 室あり、マウス、ラット、モルモット、ウサギなどを飼育できる。飼育室のほか各種試験をするための実験室が 2 室あり、代謝ケージ等を用いた特殊な飼育にも対応できるようになっている。

平成 23 年度の実績では、10 件の動物実験計画が実験倫理委員会および動物管理委員会の審査を経て承認され、89 名（教員、研究生、学生の合計）が施設利用許可を得た。動物の年間使用数はマウス 3,253 匹、ラット 839 匹、モルモット 9 匹であり、時期により飼育数の多寡はあるが日平均飼育数はマウス 152 匹、ラット 46 匹、モルモット 0.2 匹であった。また、年間施設利用者数は延べ 2,751 名であった。

生命科学研究センターが関わる大きな年間行事として、施設利用者へのガイダンスの実施、学生実習の補助、メモリアル・セレモニー（実験動物に感謝する会）の開催が挙げられる。

利用者ガイダンスは毎年度初めに実施しており、新規利用者も継続利用者も、受講しなければ施設利用許可を得られない。施設利用手順の説明をするとともに、教育訓練の機会として、動物飼育環境の衛生状態の維持・向上のための諸注意を伝達し、3R を中心とした動物愛護の徹底を図っている。動物を用いた実験研究に携わる教員とともに、卒業研究で動物実験を実施する薬学部学生も毎年大勢参加している。

医療系学生が生命の尊厳を直面し成長する場としての生命科学研究センター

薬学部で実施する学生実習のうち、生物系および薬理系の実習で動物を用いており、生命科学研究センターはその活動を補助している。学生実習で動物実験を実施することにな

るため、通常の研究に比べて使用する動物数も多く、学生実習時期は施設にとっても繁忙期となっている。学生にとっては実験動物に触れる初めての機会であり、多分に緊張しながら動物実験を実施しているようである。学生の実習レポートや感想によると、生身の生物を相手にすることで強い印象が残り、通常の講義で学ぶより効果的に生物学や薬理学の知識を深めているようである。また、自ら動物の生死に立ち会う経験をするにより、生命倫理に対する深い洞察をも得ているようである。解剖生理学系の実習項目では毎年学生一人一人がラットをサクリファイスした際の気持ちを綴った「エッセー集」を刊行しており、それぞれがどのように生死と向き合い、生命倫理感を育んでいるかに関する過程が教員・学生間で共有できるようになっている。将来医療に携わる学生にとって、非常に意義深い成長の場となっている。

メモリアル・セレモニーは「実験動物に感謝する会」として無宗教の自由参加の会として開催される。学生実習の終了時には実習担当者の主催により実施され、また、毎年度末に薬学部の主催として実施されている。毎回関係者の多くが参加し、改めて動物実験の役割や動物愛護について考える機会となり、一年の実験活動を締めくくる貴重な場の一つとなっている。

今後も、動物愛護の精神に則り 3R を推進し生命倫理を普及することと、教育的な効果と質を維持することの両立を目指して、大学・学部の教育と連携しながら生命科学研究センターの活動を展開していく所存である。